

日米国債ファンドの積立投資～世界で米国国債ETFが人気、日本で個人向け国債が人気！（新窓販国債は？） かつて人気だった中期国債ファンドなど 公社債投信や長期国債ファンドなど単位型投信は今～

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 経営企画部 松尾 健治（シニアリサーチアナリスト）
窪田 真美（シニアリサーチアナリスト）

※三菱UFJアセットマネジメントがお届けする、内外の資産運用に関連する情報を発信するコラムです。

●日米欧で 20 年ぶり同時期利上げ！ 長期金利はいったん低下するがその後急騰

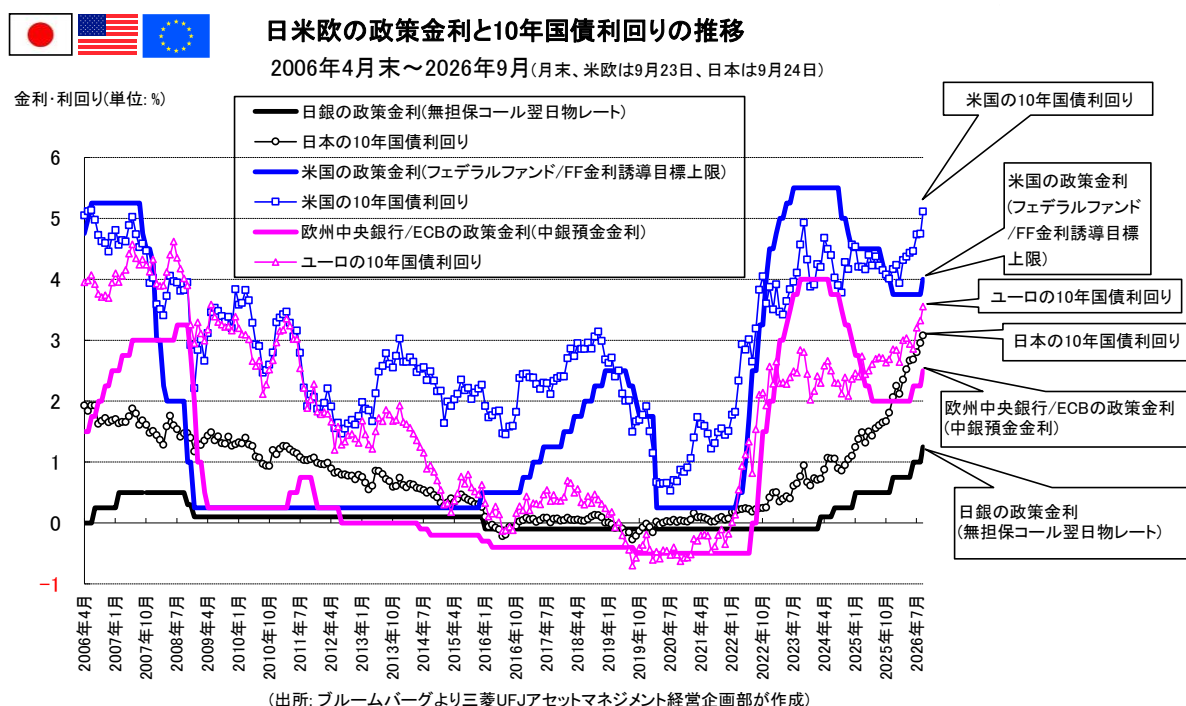
日米欧の中央銀行が 2006 年 6&7 月来 20 年ぶりの同時期利上げを実施した（下記図表参照）。2026 年 9 月 10 日に欧州中央銀行/ECB が政策金利（中銀預金金利）を+0.25 の 2.50%へ 2025 年 4 月 16 日來高さに引き上げ、2026 年 9 月 16 日に米連邦準備理事会/FRB が政策金利（フェデラルファンド/FF 金利誘導目標上限）を+0.25 の 4.00%へ 2025 年 12 月 9 日來高さに（2024 年 9 月 18 日からの利下げの転換）、そして 2026 年 9 月 18 日に日銀が政策金利（無担保コール翌日物レート）を+0.25 の 1.25%へ 1995 年 4 月 13 日來 31 年ぶり高さに引き上げた（2024 年 3 月 19 日のマイナス金利解除から 6 回利上げ）。

インフレ抑制姿勢を市場が信認、**日米欧で 10 年国債利回りが低下**した。日本は 9 月 18 日に 2.989%（←2026 年 9 月 15 日 3.041%と 1996 年 8 月 27 日來 30 年ぶり高さ）、米国は 9 月 21 日に 4.951%（←2026 年 9 月 16 日 5.023%と 2007 年 7 月 18 日來 19 年以上ぶり高さ）、欧州は 9 月 21 日に 3.458%（←2026 年 9 月 15 日 3.538%と 2009 年 6 月 18 日來 17 年以上ぶり高さ）まで低下した。

ただ 9 月 23 日（日本時間 22:45）発表の米 PMI（購買担当者景気指数）が予想を超え米追加利上げ観測が高まり（FF 先物で 55% から 68%へ）、**日米欧で 10 年国債利回りが急騰**している。米 10 年国債利回りは 9 月 23 日に 5.114%と 2007 年 7 月 12 日來 19 年以上ぶり高さ、欧州は 9 月 23 日に 3.555%と 2009 年 6 月 12 日來 17 年以上ぶり高さ、日本は 9 月 24 日に 3.080%と 1996 年 8 月 27 日來 30 年ぶり高さまで急騰している。長期金利上昇が米中間選挙（2026 年 11 月 3 日）へ影響する事を懸念するベッセント財務長官が再び長期国債の買い戻し/buybacks、ベッセントツイスト

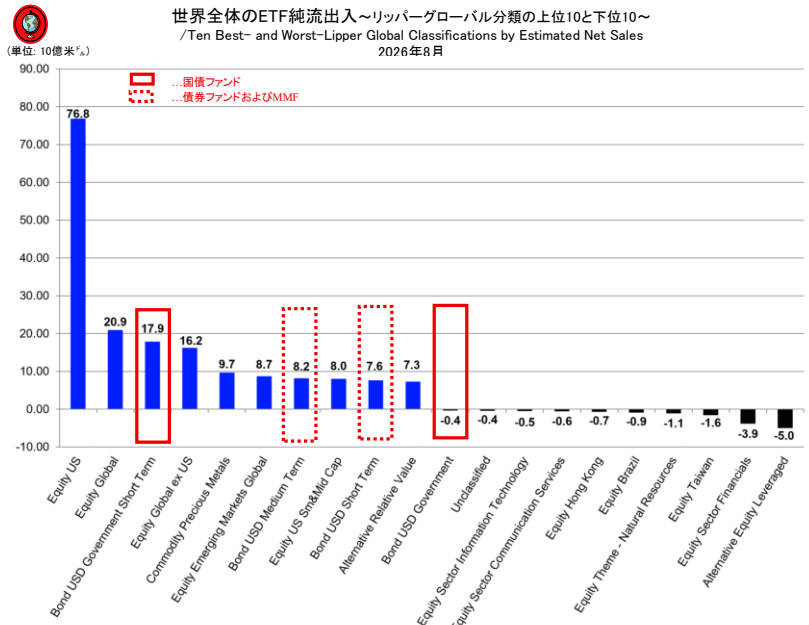
/Bessent Twist（財務省版ツイスト/The Treasury Twist）をする可能性がある（2026 年 9 月 10 日付投信調査コラム No.450「世界の国債ファンド（含む物価連動国債/TIPS&インフレ連動債/TIPS

ファンド）～日本の国債 NISA 法案と個人向け国債を NISA の対象にする税制改正要望、英国のトラスショックと米国のベッセントツイストと日本の骨太ショック～」～ http://www.am.mof.go.jp/report/investigate/column_36918.pdf ○



●世界で米国国債 ETF が人気

日米欧の 20 年ぶり同時期利上げの後、LSEG リッパ―/LSEG Lipper が 2026 年 9 月 21 日に「世界の ETF 業界は 2026 年 8 月に米欧株の高値更新を背景に非常に力強い流入を享受していたが/The global ETF industry enjoyed very strong inflows over the course of August、2026 年 8 月の後半になってその上昇基調はやや不確実となった。中東情勢、エネルギー価格、そして、**中央銀行のタカ派的な姿勢が債券市場を不安定な状態にした**為だ。…(略)…。米国では金融政策が最も大きな市場心理の変化をもたらした。連邦準備制度理事会/FRB のケビン・ウォーシュ/Kevin Warsh 議長は物価安定の重要性を強調、短期国債利回りが上昇した(イールドカーブは平坦化した)。米財務省は長期国債の買い戻し/buybacks を拡大する計画を発表したものの、発行額増や債務返済コスト上昇の懸念を払拭出来ず米 10 年国債利回りは 2026 年 8 月末に約 4.75% となり、ほとんどの債券は売り圧力にさらされた。欧州中央銀行/ECB や日銀/BOJ も…(略)…。世界全体の ETF 純流出入/the overall fund flow trend in the global ETF industry で最も純流入が多かったのは米国株式/Equity U.S.の+768 億米ドル、次にグローバル株式/Equity Global の+209 億米ドル、3 番目が**米ドル建て短期国債/Bond USD Government Short Term の+179 億米ドル**、4 番目が米国を除くグローバル株式/Equity Global ex U.S.の+162 億米ドル、5 番目が金(ゴールド)など商品/Commodity Precious Metals の+97 億米ドルだった。」と報じていた(強調下線は当コラム



(出所: 2026年9月21日付LSEG、赤い実線枠・破線枠と見出し等日本語は三菱UFJアセットマネジメント経営企画部)

筆者、2026 年 9 月 21 日付 LSEG「Monday Morning Memo: Global ETF Industry Review: August 2026」～ <https://lipperglobalfundflow.com/reports/2026/09/monday-morning-memo-global-etf-industry-review-august-2026/>)

日米欧の 20 年ぶり同時期利上げの前、ETFGI は 2026 年 9 月 16 日に「2026 年 8 月、ETF には 2,481.5 億米ドルの純流入があり、年初からの純流入額は過去最高の 2 兆ドルに達し、87 か月連続純流入額となった。…(略)…。債券 ETF は 8 月に 493.6 億米ドルの純流入を記録、年初からの純流入は 3640.5 億米ドルとなり、前年同期の 2,649.6 億米ドルを上回った。」と報じていた(強調下線は当コラム筆者、2026

年 9 月 16 日付 ETFGI「ETFGI reports Global ETF Assets Top \$24 Trillion for the First Time as

Investors Add Nearly \$2 Trillion in 2026」～ <https://etfgi.com/news/press-releases/2026/09/etfgi-reports-global-etf-assets-top-24-trillion-first-time-investors>

trillion-first-time-investors)

モーニングスター/Morningstar によると、世界の ETF 超大国の米国で短期国債/Short Government ファンド

(含む ETF)が ETF の牽引で 2026 年 9 月 2 日週に+64 億ドル/約 1 兆円と 11 週連続純流入で大きな純流入(週次データの入手可能な 2022 年 10 月 12 日週以降で最大)だった事、金 ETF 等の商品・フォーカス/Commodities Focused ファンドが 2026 年 9 月 2 日週に+23 億ドル/約 3,700 億円と 5 週連続純流入だった事からも、予想されていた事でもある(2026 年 9 月 10 日付投信調査レポート

No.463「日米で日本株や金などに純流入、米国で米短期国債純流入 1 位、米中長期国債純流出 1 位! ～ベッセント財務長官の長期金利の上昇を抑える為の国債管理戦略「ベッセントツイスト」～」～ https://www.mof.go.jp/press/investigate/report_202610.pdf)



世界全体のETF純流出入～上位20～
/Growth in assets in the Global ETFs industry as of the end of August
2026年8月

		(単位: 100万米ドル)			
		Assets	NNA	NNA	NNA
Name		(US\$ Mn)	(US\$ Mn)	(US\$ Mn)	(US\$ Mn)
		Aug-26	YTD 2026	Aug-26	Aug-26
Vanguard S&P 500 ETF	VOO US	1,048,079	106,049	27,180	
Invesco QQQ Trust	QQQ US	489,841	15,292	12,844	
Vanguard Morningstar Total Stock Market ETF	VTI US	685,209	44,009	7,309	
iShares 0-3 Month Treasury Bond ETF	SGOV US	105,196	36,015	6,105	
iShares 20+ Year Treasury Bond ETF	TLT US	47,302	2,286	5,591	
Vanguard Short-Term Treasury ETF	VGSH US	34,647	9,182	4,464	
State Street SPDR Portfolio S&P 500 ETF	SPYM US	170,096	55,724	3,843	
Vanguard FTSE All-World UCITS ETF	VWRD LN	85,317	23,481	3,579	
Schwab US Dividend Equity ETF	SCHD US	112,384	19,747	3,572	
Avantis US Large Cap Value ETF	AVLV US	21,588	9,949	3,411	
Invesco Nasdaq 100 ETF	QQQM US	104,365	21,447	3,128	
Yinhua Traded Money Market Fund	511880 CH	16,539	4,927	2,666	
iShares Core S&P Mid-Cap ETF	IJH US	124,637	7,840	2,449	
Vanguard Intermediate-Term Corporate Bond ETF	VCIT US	69,890	12,507	2,413	
Vanguard Total Bond Market ETF	BND US	163,264	21,043	2,350	
Schwab Short-Term US Treasury ETF	SCHO US	15,182	3,425	2,323	
Vanguard Total International Stock Index Fund ETF	VXUS US	164,862	24,033	2,318	
ProShares GENIUS Money Market ETF	IQMM US	19,539	19,527	2,145	
Invesco S&P 500 Equal Weight ETF	RSP US	100,442	13,224	2,025	
iShares MSCI EAFE Value ETF	EFV US	31,720	200	2,024	

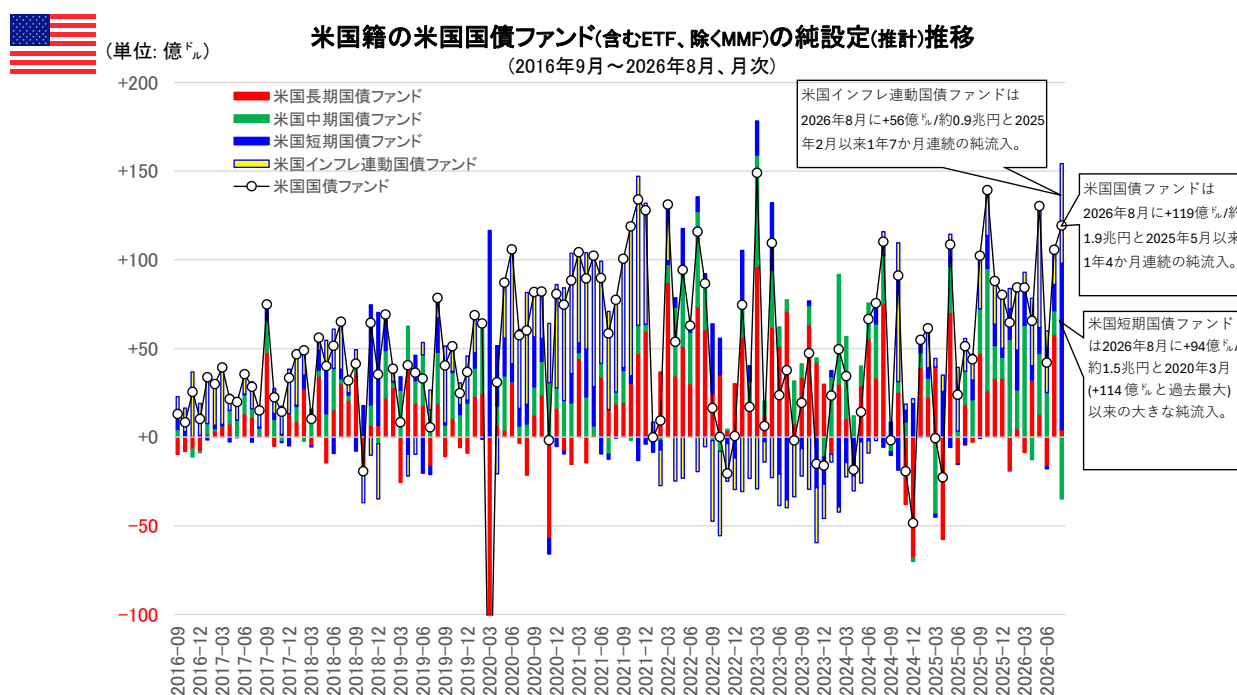
(出所: 2026年9月16日付ETFGI、赤い実線枠・破線枠と見出し等日本語は三菱UFJアセットマネジメント経営企画部)

●米国の国債ファンド(2026年9月16日週に米国長期国債ファンドへ5か月ぶりの大きな純流入)

モーニングスター/Morningstar のデータを使い、ETF でもミューチュアルファンドでも圧倒的な規模を誇る米国籍投信(含む ETF、除く MMF)を見る。2026年8月に121分類/Morningstar Categories で最も純流入が多かったのは米国短期国債 ETF「iShares 0-3 Month Treasury Bond ETF」の牽引する米国超短期債券/Ultrashort Bond(米国国債含む)+149 億米ドル、次に米国債券ミューチュアルファンドシェアクラス「Vanguard Total Bond Market II Idx I」の牽引する中期コア債券/Intermediate Core Bond+148 億米ドル、3 番目が金 ETF「SPDR Gold Shares」の牽引する商品フォーカス/Commodities Focused+101 億米ドル、4 番目が短期国債 ETF「Vanguard Short-Term Treasury ETF」の牽引する米国短期国債/Short Government+94 億米ドル、5 番目がナスダック 100 指数連動 ETF「Invesco QQQ Trust」の牽引する米国大型グロース株式/Large Growth+90 億米ドルだった。

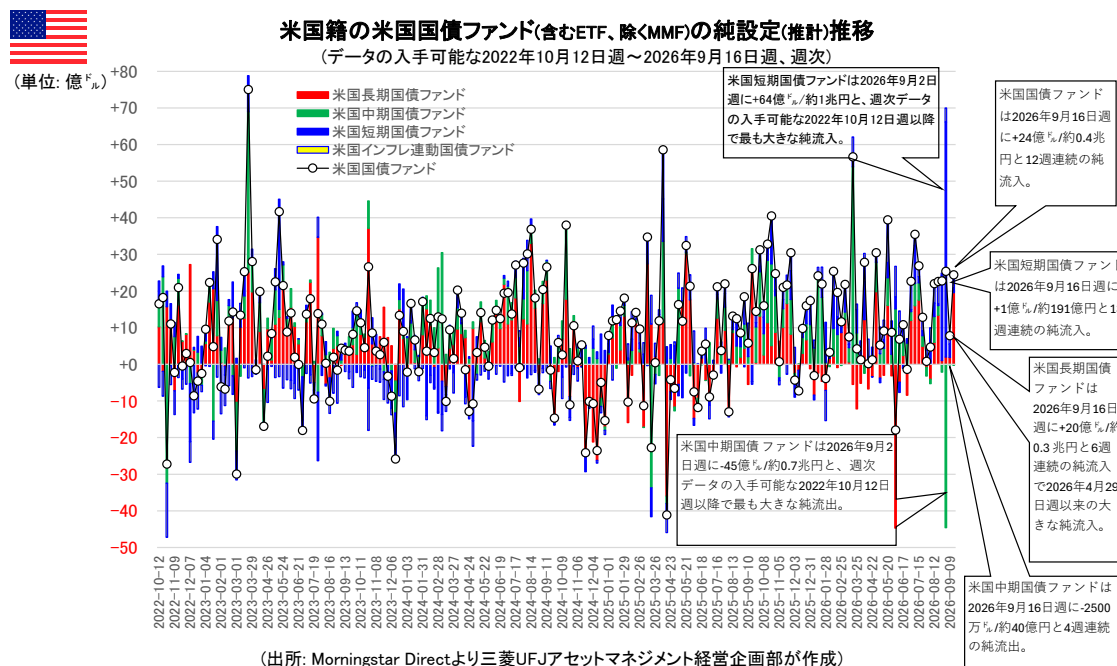
米国国債ファンドだけで見ると全体は 2026 年 8 月に+119 億ドル/約 1.9 兆円と 2025 年 5 月来 1 年 4 か月連続の純流入。上述通り米国短期国債ファンドが+94 億ドル/約 1.5 兆円と 2020 年 3 月(+114 億ドルと 1993 年 2 月からのデータで最大)来の大きな純流入となって牽引している。米国長期国債/Long Government は+4 億米ドル/約 700 億円と小さな純流入、米国中期国債/Intermediate Government は-35 億米ドル/約 0.6 兆円と 2025 年 3 月来の大きな純流出だ。米国インフレ連動国債ファンド/Short-Term Inflation-Protected Bond と Inflation-Protected Bond は+56 億ドル/約 0.9 兆円と 2025 年 2 月来 1 年 7 か月連続の純流入となっている。

長期国債や中期国債への流入が少ないのはインフレや金利上昇への懸念であろう。しかし短期国債ファンドが+114 億米ドルという過去最大の純流入を記録した 2020 年 3 月、中期国債は-66 億米ドルで、長期国債は-111 億米ドルと共に過去最大の純流出を記録したが、その後は純流入傾向となり過去最大の純流入も記録する(各々 2025 年 10 月と 2023 年 3 月)。米国インフレ連動国債ファンドは 2020 年 3 月に-126 億米ドルと過去最大の純流出を記録するものの、その後は純流入傾向となり 2021 年 10 月に過去最大の純流入を記録、2022 年から 2024 年は純流出傾向となっており、国債ファンドの純流出の今後について参考にはならない。2020 年 3 月以降と同じ事が繰り返されるのなら、今後、長期国債や中期国債への流入が増える可能性もある。



(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が作成)

以上は 2026 年 8 月までの月次の純設定(推計)推移を見たものだった。2026 年 9 月 16 日週末までの週次データが既に入手出来るので、週次の純設定(推計)推移を見る。
 米国国債ファンドだけで見ると全体は 2026 年 9 月 16 日週に+24 億ドル/約 0.4 兆円と 12 週連続の純流入となる中、米短期国債/Short Government が+1 億ドル/約 191 億円と 13 週連続純流入(9 月 2 日週に+64 億ドル/約 1 兆円と週次データの入手可能な 2022 年 10 月 12 日週末最大な純流入)。米中期国債(4-6 年)/Intermediate Government は-2,500 万ドル/約 40 億円と 4 週連続の純流出(9 月 2 日週に-45 億ドル/約 0.7 兆円と週次データの入手可能な 2022 年 10 月 12 日週末最大な純流出)。
 米国インフレ連動国債ファンド/Short-Term Inflation-Protected Bond と Inflation-Protected Bond は 9 月 16 日週に+4 億ドル/約 600 億円と 2025 年 2 月 4 日週末 33 週連続の純流入となっている。
 米長期国債(6 年超)/Long Government が+20 億ドル/約 0.3 兆円と 6 週連続の純流入。
 今後、長期国債や中期国債への流入が増える兆しかもしれない。



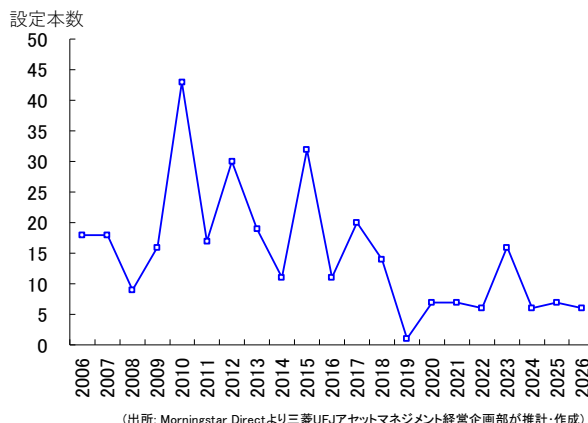
参考までに、米国の国債ファンドの純資産は世界最大の約 50 兆円で、数(シェアクラス)は約 600 本(物価連動国債を含み MMF を除く追加型投信、その国籍の国債とは限らない)。アイルランドは世界 2 位の約 26 兆円で約 1,300 本、ルクセンブルクは同 3 位の約 21 兆円で約 2,300 本、英国は世界 4 位の約 3.7 兆円で約 420 本、そして、**日本は世界 8 位の約 0.5 兆円で約 140 本**。米国は国債ファンドの純資産規模、本数ともに大きく、新規設定の余地が小さいことから、新規設定本数も少ない様である。



米国の国債ファンドの新規設定本数推移

(2006年 ~ 2026年、年次、2026年は9月末まで)

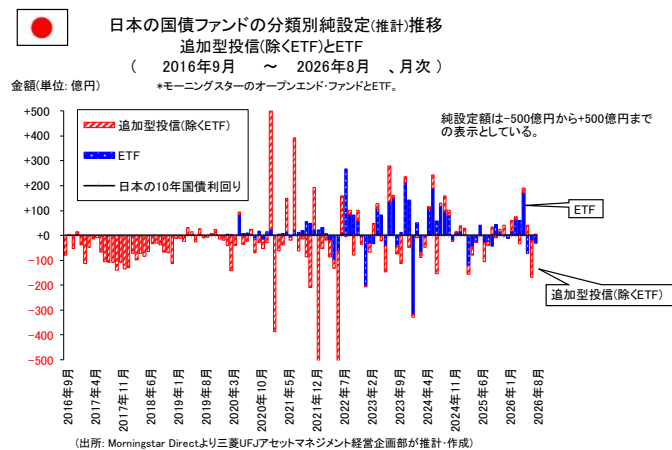
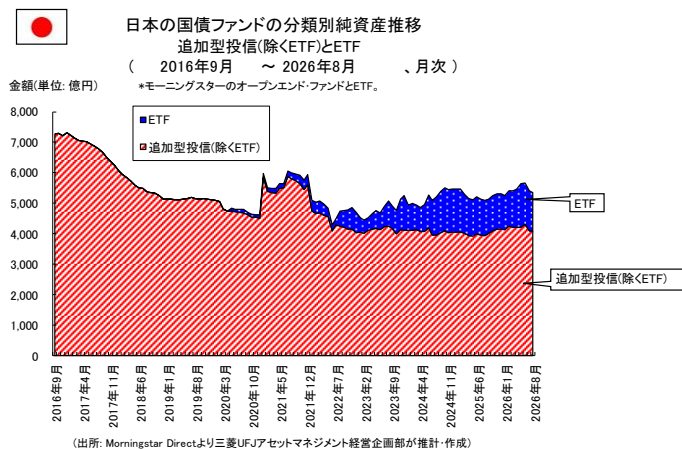
* 米国の国債ファンド…物価連動国債および海外国債を含む追加型投信(マザーファンドを除く)。



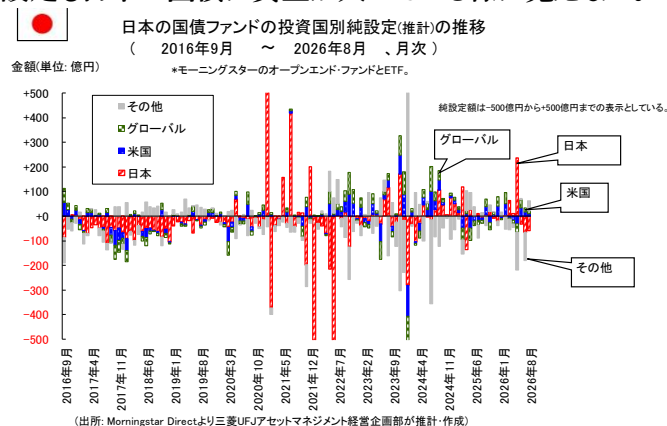
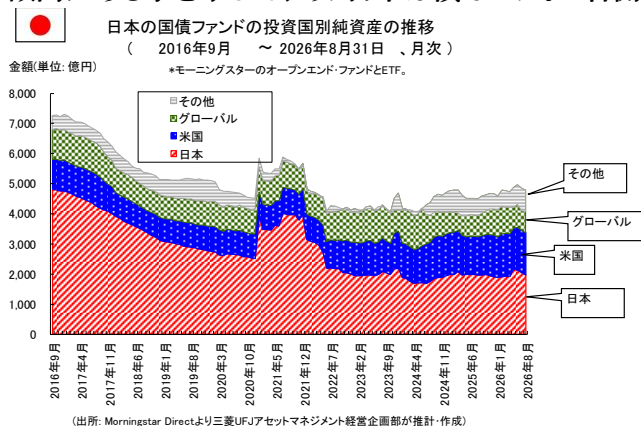
●日本の国債ファンド～投信の国債投資が過去最大、債券ファンドの設定急増、個人向け国債が人気！

(新窓販国債は?) かつて人気だった中期国債ファンドなど公社債投信や長期国債ファンドなど単位型投信は今～

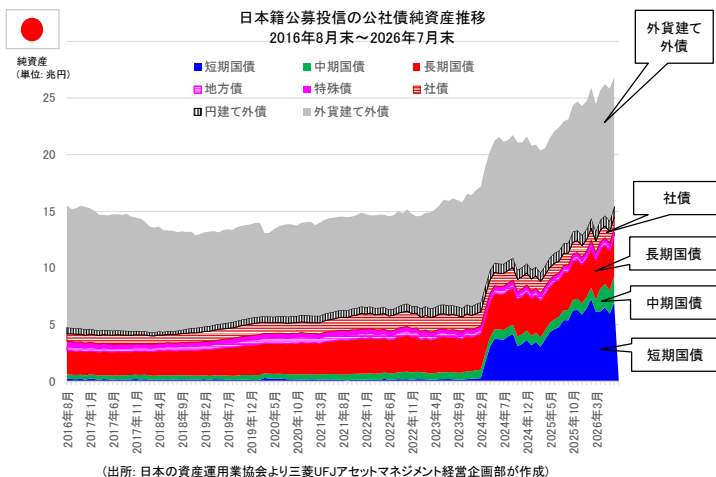
前頁の最後に日本の国債ファンドの規模がかなり小さく、その数が少ない事を示した。下記は日本の国債ファンドの分類別純資産・純設定推移である。左側の純資産は増加傾向にあるもののETF中心で、追加型投信(除くETF)は横ばいだ。右側の純設定も資金が入っている様にも見えない。



下記は日本の国債ファンドの投資国別純資産・純設定の推移である。左側の純資産は米国の国債投資が増加傾向にある事を示しており、日本は横ばいだ。右側の純設定も日本の国債に資金が入っている様にも見えない。



ただ、投信の債券投資が増えている。2026年7月末に公募投資信託が保有する公社債純資産は26.8兆円と2016年8月からのデータで最大となった(資産運用業協会…<https://www.toushin.or.jp/statistics/statistics/data/>、B. 公募投資信託 B-13 公社債の種類別残高明細表)。投信の国債投資が12.6兆円と最大(うち長期国債は3.6兆円と最大、うち中期国債は2.3兆円と最大)である。投信の国債投資ニーズはあるものの、日本の国債ファンドの数が少なく、種類が少ない可能性がある。



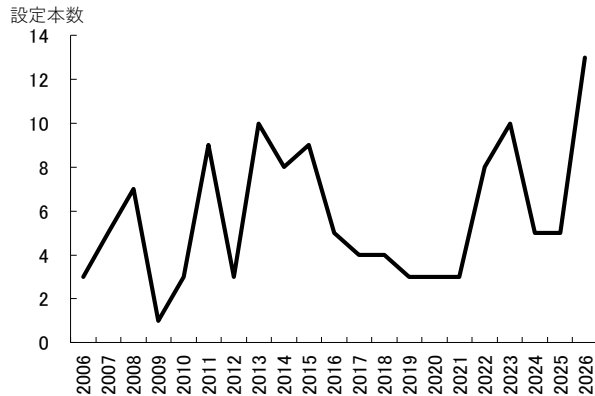
日本の国債ファンドの増加と多様化に応えるかの様に日本の国債ファンドの新規設定が急増傾向にある。世界の国債ファンドの国籍別新規設定本数をみても日本は少なく、今後、日本で国債ファンドが増える可能性を示す。



日本の国債ファンドの新規設定本数推移

(2006年～2026年、年次、2026年は9月末まで)

*日本の国債ファンド…物価連動国債および海外国債を含む追加型投信(マザーファンドを除く)。



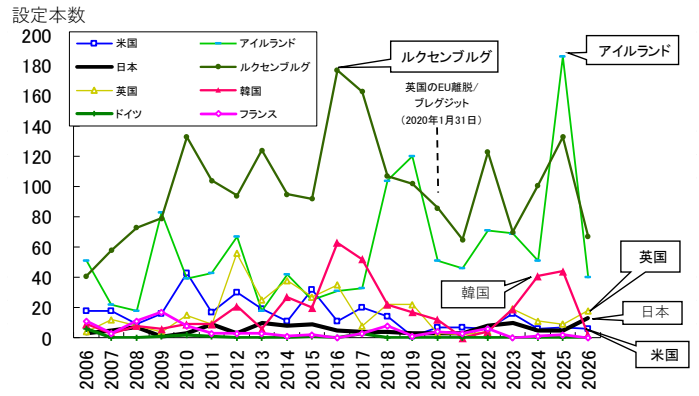
(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が推計・作成)



世界の国債ファンドの国籍別新規設定本数推移

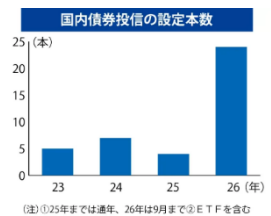
(2006年～2026年、年次、2026年は9月末まで)

*世界の国債ファンド…物価連動国債を含むMMFを除く追加型投信(マザーファンドを除く)、その国籍の国債とは限らない。



(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が推計・作成)

ニッキンは2026年9月15日に「資産運用業界は、国内債券を投資対象とする公募投資信託やETF(上場投資信託)の設定を増やしている。従来は株式投信が中心だったが、金利の上昇を受けて債券ファンドの需要が高まってきたのに対応。2026年は9月までで24本になる見通しで、25年(通年)の4本から、すでに6倍に達している。…(略)…債券投信にとって、個人向け国債などの公社債そのものが競合商品になるとの見方もある。ただ、**原則1年間は中途換金できない国債と比較すると流動性が高く、NISA(少額投資非課税制度)の成長投資枠の対象**となる点が債券投信の強みとなる。資産運用業協会の菱田賀夫会長は『金利が上がってきた中で債券投信が増えていくこと自体は自然なこと』と話し、個人投資家が投資できる金融商品の幅が広がることを歓迎する。」と報じていた(強調下線は当コラム筆者、下記※2参照、2026年9月15日付ニッキン「運用業界、国内債券投信6倍に 金利上昇で関心高まる」～ <https://www.aikibonline.com/article/423172>)。



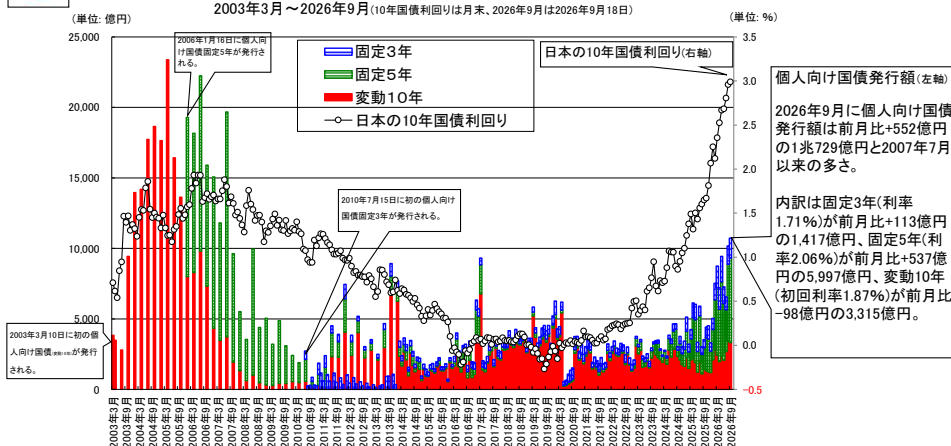
(注)①25年までは通年、26年は9月までのETFを含む

国債ファンドの数が少なく種類も少ない事もあり(かつては数種類も多かった…後述※1参照)、国債現物に向かっている様にも見える。個人向け国債(個人限定、毎月発行、最低1万円、1万円単位)発行額は2026年9月に前月比+552億円の1兆729億円と2007年7月来多さだ(財務省「国債等関係諸資料」～ <https://www.mof.go.jp/jcms/reference/appendix/index.htm>)。「固定3年(利率1.71%)」が前月比+113億円の1,417億円、「固定5年(利率2.06%)」が前月比+537億円の5,997億円、「変動10年(初回利率1.87%)」が前月比-98億円の3,315億円。**2026年10月の金利は固定3年が利率1.96%(+0.25)、固定5年が利率2.24%(+0.18)、変動10年が初回利率1.95%(+0.08)と、どれも2か月連続過去最高の利率**であり、2026年10月も高い人気が見込まれる(2026年9月9日現在財務省「現在募集中の個人向け国債・新窓販国債」～ <https://www.mof.go.jp/jcms/individual/sojinmaku/recruitment/>)。ただ**新窓販国債はあまり人気が無い**(後述※2参照)。



日本の個人向け国債発行額推移

(積み上げ棒グラフ) 2003年3月～2026年9月(10年国債利回りは月末、2026年9月は2026年9月18日)



(出所: 日本の財務省より三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が作成)

●日米国債ファンドの積立投資

以上で述べた日米の長期国債や国債ファンドに、いつ、どう投資をすれば良いか？

金利上昇が続く限り、金利水準が魅力的でも保有国債の含み損が拡大する。これまで国債を買ってきた金融機関には、これまでの急激な金利上昇で保有国債の含み損が膨らみ、含み損処理(損切り)や短期化を懸命に進めている所もある。個人向け国債の人気で預金等の流出もあり、個人向け国債がNISAの対象になれば、一層の流出懸念が高まる(2026年9月10日付投信調査コラム No.450「世界の国債ファンド(含む物価連動国債/TIPS&インフレ連動債/IPS ファンド)～日本の国債NISA 法案&個人向け国債をNISAの対象にする税制改正要望、英国の

ラスショックと米国のベッセントツイストと日本の骨太ショック～」～ https://www.am.mof.go.jp/report/investigate/colomn_200910.pdf)

日米の長期国債や国債ファンドにいつ投資をすれば良いかわからないならドル・コスト平均法という選択がある(ドル・コスト平均法/Dollar-Cost Averaging/DCA:Automatic Investment Program/AIP、英国の英ポンド・コスト平均法/Pound Cost Averaging/PCA、ユーロ圏のユーロ・コスト平均法/Euro Cost Averaging/ECA)。個人は含み損処理の必要性が低く金融機関よりも長期積立投資がしやすい。さらに個人は債券で運用する公募の株式投信を利用すればNISAの対象となり非課税にもなる(下記※2 参照)。

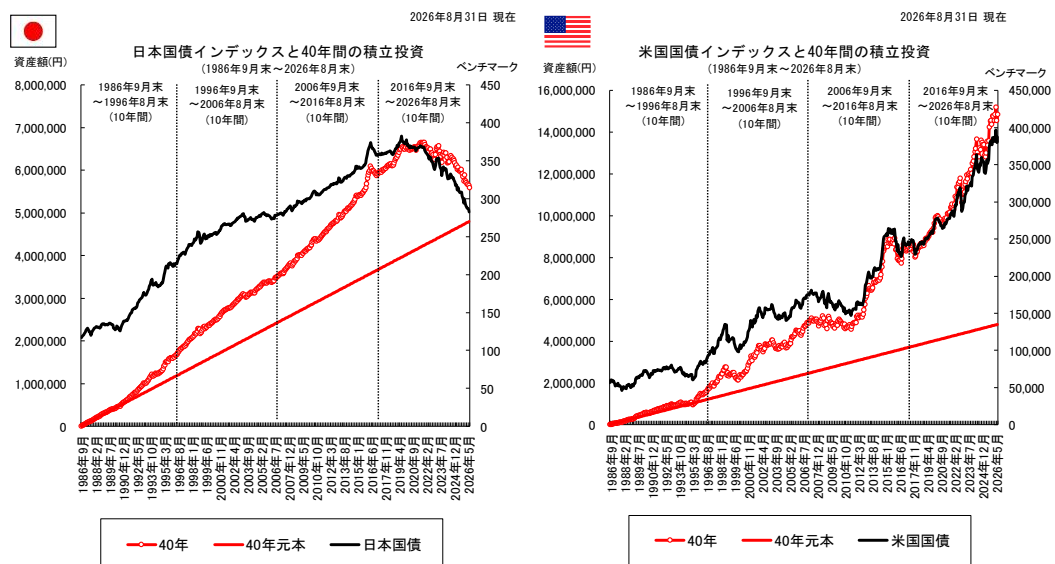
ここで、日米の10年国債と、NISAでも使われる事の多い主なインデックスを、期間・開始時期・積立終了(出口)時期を変えて検証した結果の一部を見る(当コラムでは旧NISA開始前の2013年2月8日付投信調査コラム No.2「ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバル

REIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)。」～ <https://www.am.mof.go.jp/text/19209.pdf> から継続中、直近は2025年1月14日付投信調査コラム No.417「世界の積立投資(日本・米国・ドイツ・英国・中国・インドの積立投資

の検証と情報)～日本で積立NISAが逆張り等の売りを緩和、ドイツでETF積立プラン急増、中国で個人年金にインデックスF、インドでSIP/積立投資制度増加～」～ https://www.am.mof.go.jp/report/investigate/colomn_200114.pdf)。この検証は

1986年9月末から2026年8月末までの40年を対象に、毎月1万円を積み立て、その成果を多様な10・20年・40年で見るものである。なお、10年国債投資の場合は、利金・償還金をその支払い月の月末に再投資する(米国は毎月1万円を米ドルに転じて成果は円換算)。税金や取引コストは考慮していない。

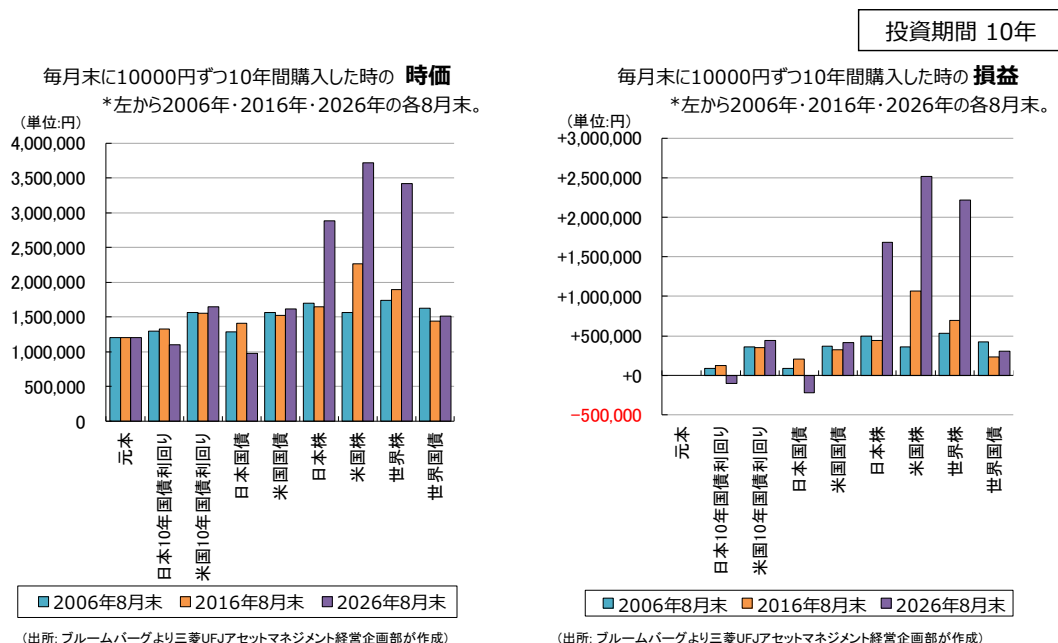
下記は左が日本国債インデックスと40年間の積立投資で、右が米国国債インデックスと40年間の積立投資だ。日本国債インデックスは1986年9月末～2016年8月末の30年間は右上がり(積立投資は利益増加)傾向だったが、**2016年9月末～2026年8月末の10年間は(2016年2月16日から適用開始のマイナス金利が2024年3月19日に解除、その後6回利上げ、日本の10年国債利回りは2016年7月27日のマイナス0.287%から2026年9月15日の3.041%という1996年8月27日以来高さまで急騰した、大幅右下がり(積立投資は利益急減)となった。**米国国債インデックスは米ドル建てでは2020年8月4日(10年国債利回りが0.506%と過去最低)をピークに頭打ちだが、米ドルが100円前後から160円前後まで急騰、円換算では急な右上がりとなっている。



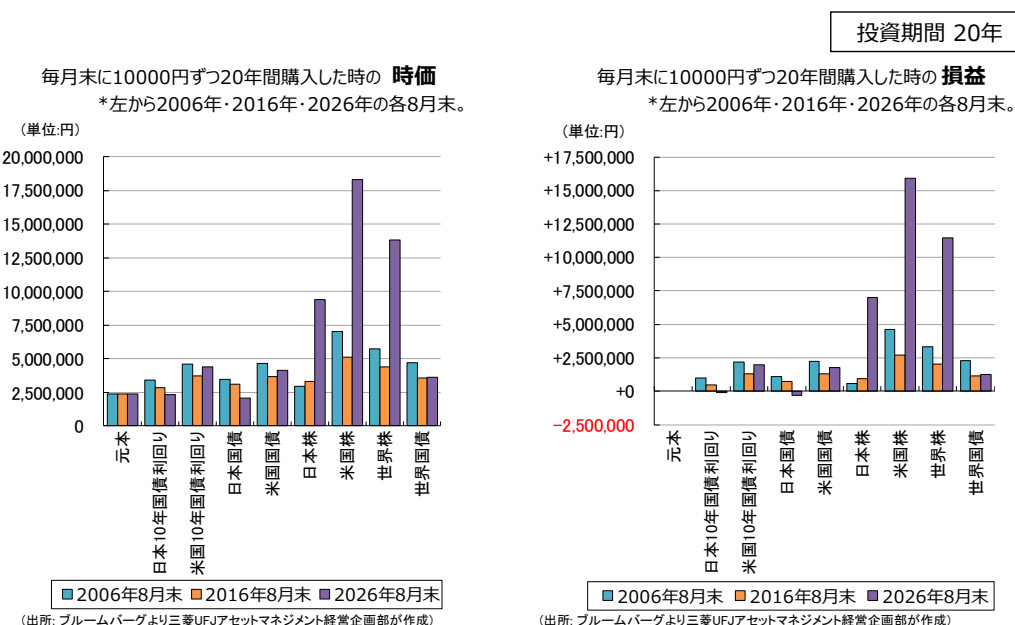
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が作成)

(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が作成)

まずは 10 年間の積立投資である(1996 年 9 月末～2006 年 8 月末、2006 年 9 月末～2016 年 8 月末、2016 年 9 月末～2026 年 8 月末)。



次に 20 年間の積立投資である(1986 年 9 月末～2006 年 8 月末、1996 年 9 月末～2016 年 8 月末、2006 年 9 月末～2026 年 8 月末)。



2016 年 9 月末～2026 年 8 月末(10 年間)や 2006 年 9 月末から 2026 年 8 月末(20 年間)の様な低金利・マイナス金利局面から金利が大幅に上昇する局面を除けば、日米の国債ファンド長期積立投資は検討に値すると思われる。

投資期間 10年				投資期間 20年			
*積み立て成績は累計投資額に対する現在の時価の倍率。				*積み立て成績は累計投資額に対する現在の時価の倍率。			
ベンチマーク (国債利回りは国債現物投資)	1996年9月末から 2006年8月末	2006年9月末から 2016年8月末	2016年9月末から 2026年8月末	ベンチマーク (国債利回りは国債現物投資)	1986年9月末から 2006年8月末	1996年9月末から 2016年8月末	2006年9月末から 2026年8月末
元本	1.00	1.00	1.00	元本	1.00	1.00	1.00
日本10年国債利回り	1.08	1.10	0.92	日本10年国債利回り	1.42	1.20	0.96
米国10年国債利回り	1.30	1.29	1.37	米国10年国債利回り	1.92	1.55	1.82
日本国債	1.07	1.17	0.81	日本国債	1.45	1.29	0.86
米国国債	1.30	1.27	1.35	米国国債	1.93	1.53	1.73
日本株	1.41	1.37	2.41	日本株	1.24	1.38	3.91
米国株	1.30	1.89	3.10	米国株	2.92	2.13	7.64
世界株	1.45	1.58	2.85	世界株	2.39	1.84	5.77
世界国債	1.35	1.20	1.26	世界国債	1.96	1.48	1.51

(出所: プルームバークより三菱UFJアセットマネジメント経営企画部が作成)

※1: かつて人気だった中期国債ファンドなど公社債投信や長期国債ファンドなど単位型投信は今…



ファンド情報が2026年2月9日に「かつて個人の運用手段としては中期国債ファンドやMMF、短期公社債投信など、円金利物が中心だった。その後ゼロ金利や量的緩和、マイナス金利政策など、長いデフレ時代の金融政策により、金利物の対象は外債に移り、円債での運用ニーズは大きく縮小した。しかし再び世の中がインフレに戻り、円金利に上昇圧力がかかる中で、MRFやMMFが復活し、債券への資金回帰も期待される。」(2026年2月9日付

ファンド情報「設定増える円債ファンド」金利上昇で投資妙味 短期は預金代替狙う」～ <https://www.z-1.co.jp/journal/products/fund/backNumber.html?backContentId=532641>）、日本経済新聞が2026年8月7日に「個人(家計)が国債を保有しやすい環境を整備していくことは、国債の安定消化と保有層の多様化を進めていくうえで大事なポイントとなる。…(略)…『中国(ちゅうごく)ファンド』の復活を提案してみたい。中国ファンドというのは中期国債を中心に、公社債で運用を行っていた投資信託のことだ。普通預金と同じ感覚で利用でき、銀行預金より高い利回りが確保できるこの投信は、1980年代に大きな人気を集めた。中国ファンドのような金融商品があることは、家計にもメリットがある。」と報じていた(2026年8月7日付日本経済新聞「中期国債ファンドの復活を 中里逸氏」～ <https://www.nikkei.com/article/DGCKQ9C0262809WAA329C2000000/>、中期国債

ファンドは元大蔵省(現・財務省)証券局長の貴重な記録がある…1985年5月14日付日本証券経済研究所「昭和54～56年の証券局行政」のp.5～ <https://www.jes.or.jp/upload/bd2774eb6f6a8b4d921620fa08191.pdf>、<https://www.jes.or.jp/libraries/@archives/research/>)

日本ではかつて債券ファンドに公社債投信が多かったが、大幅減少、償還している(資産運用業協会… <https://www.damshin.or.jp/statistics/statistics/data/>)

2001年7月末44.9兆円(521本)まであった公募公社債投信は2026年8月末に16.3兆円(87本)に減少した。

1995年12月末8.8兆円(183本)まであった追加型内外債券ファンド(短期決済ファンド)は2013年3月0円(0本)、

2001年2月末7.9兆円(12本)まであった中期国債ファンド(中国ファンド/チューコク・ファンド)は2016年7月0円(0本)、

2000年5月末21.9兆円(15本)まであったマネー・マネージメント・ファンド/MMFは2017年5月0円(0本)、

2001年10月末10.9兆円(108本)まであった長期公社債投信(ボンド・オープン)は2026年8月末0.4兆円(72本)、

2026年2月末16.8兆円(12本)と過去最大のマネー・リザーブ・ファンド/MRFは2026年8月末15.8兆円(12本)。

多くの公募公社債投信が大幅に減少し、償還したのは、

2016年2月16日からの日銀マイナス金利政策の影響が大きい

(その他の要因…2021年9月27日付投信調査コラム

No.342「日米毎月分配型(予想分配金提示型)ファンド最新動向」

日本の予想分配金提示型～予想でも実績でも無分配でも分配金

提示が鍵～米国の日本の毎月分配型ファンド「バンガード・マネー

ード・ベアアウト・ファンド」～ https://www.am.mof.go.jp/text/outline/210827_3.pdf、

2021年11月末に5.1兆円(1496本)まであった公募の公社債投信

は2026年8月末に2.2兆円(1,107本)。

公社債

投信は基本、利子所得であ

り、2014年に始まったNISA

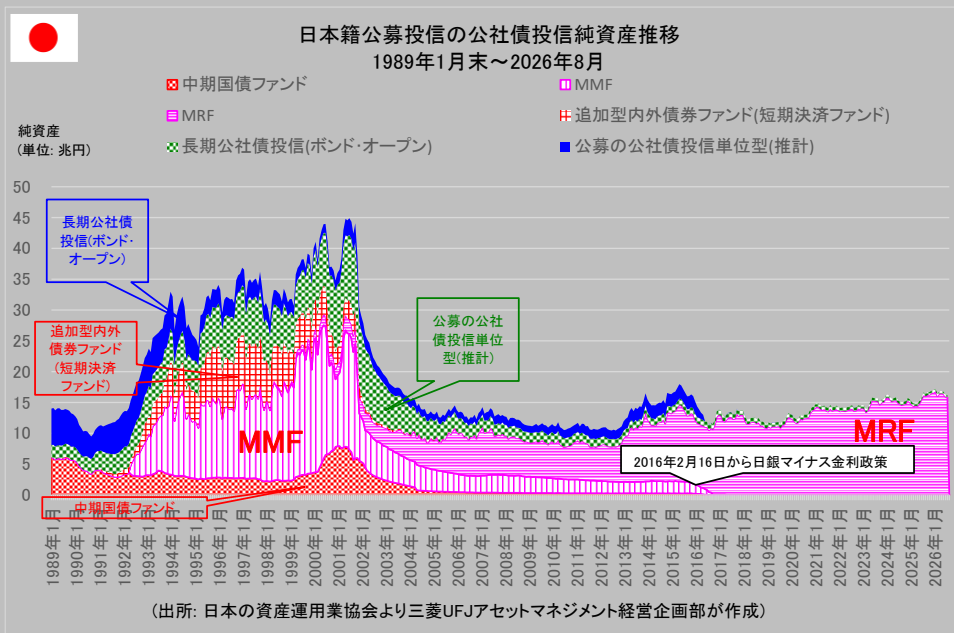
の対象外となり、債券で運用

する公募の株式投信であれば

NISA対象となる事も公社債投信減少の要因。株式投信の国内債券ファンドは2026年8月に2025年6月来1年3か月連続純流入であり、2026年7月末に純資産3.6兆円(180本)と2010年2月からのデータで最大となっている。

かつて債券ファンドでは単位型投信也多かった。1992年10月末6兆円以上(当コラム筆者推計)あった公募の公社債投信単位型は2026年8月末に0円(0本)。単位型は償還がある為、債券ファンドと相性が良く、無分配型国債ファンド「ジャンボ」や長期国債ファンド「トップ」などが人気を集めた事もある(2013年7月16日付投信調査コラムNo.20「NISA(日本版ISA)向け投信

はDC(日本版401k)の様な無(低)分配? 5年間無分配の投信の現状と無分配型投信史～ジャンボ&トップ(マル優)、LLF、日本国債ファンド～」～ <https://www.am.mof.go.jp/text/130716.pdf>)



三菱 UFJ アセットマネジメント【投信調査コラム(日本版 ISA の道)】バックナンバー：
「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱 UFJ アセットマネジメント株式会社 経営企画部シニアリサーチアナリスト
松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、
窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱 UFJ アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会